

三月のつごもりなれば、京の花盛り
はみな過ぎにけり。山の桜はまだ盛り
にて入りもておはするままに、霞の
たたずまひもをかしう見ゆれば、かかる
ありさまもならひ給はず、ところせき、
御身にて、めづらしう思されけり。寺の
さまもいとあはれなり。

『源氏物語』「若紫」より